

令和5年度 和歌山大学教職大学院運営協議会（第2回） 概要

日時 令和6年3月14日（木）15:00～16:25
場所 和歌山大学東3号館 5階 第二会議室（和歌山市栄谷930）
出席 鍋田泰延 和歌山県教育委員会学校教育局長、古田清和 和歌山市立伏虎義務教育学校校長、岸田正幸 和歌山信愛大学教授、田川裕之 教育学研究科長／教授、豊田充崇 教職開発専攻長／教授（授業実践力向上コース長）、寺川剛央 教授（副専攻長）、宮橋小百合 准教授（学校改善マネジメントコース長代理）、山崎由可里 教授（特別支援教育コース長）

欠席 前北博文 和歌山市教育委員会学校教育部長

概要

（1）研究科長挨拶

（2）出席者紹介

（3）報告

①本年度の入試状況について

豊田専攻長より、資料1のとおり説明があった。

状況：令和6年度合格者は16名。

②教員採用試験の結果について

豊田専攻長より、資料2のとおり説明があった。

③現職派遣教員修了生の教育現場での状況等について

豊田専攻長及び宮橋教員より下記のとおり説明があった。

状況：学校改善マネジメントコースの複数の修了生が学校の管理職（特に教頭職）や教育委員会の指導主事となっており、計25名の修了生がそれぞれの分野において活躍していることを確認している。

④「修了研究」の取り組みについて

豊田専攻長及び宮橋教員より、資料3及び冊子（2024年3月1-2日に開催された「教師力高度化フォーラム」発表報告資料集）のとおり説明があった。

⑤特色ある取り組みについて

豊田専攻長より、資料4（ブレンディッドラーニングによる教員研修証明プログラム）及び資料5（小規模校実習）のとおり説明があった。

状況：ブレンディッドラーニングについては理事の指示により今後段階的に有料化（年間登録料を徴収すること）、単位化も検討。受講人数が少ない講座については、対象者のニーズ調

査と、今後の学校教員の研修制度（「研修履歴」のシステム作り）とともに検討を続ける。小規模校実習の Scratch などプログラミング教育実践を持っていくのはとても現場にとってありがたい取り組みという意見があった。

⑥他大学の動向調査について

豊田専攻長より、他大学の教職大学院定員充足状況等については資料6のとおり説明があった。今後の方針として、連携大学を設けほぼ無試験で通す方法等の方策を今後検討する。

⑦修了時アンケートの結果について

宮橋教員より、資料7のとおり説明があった。

⑧その他 コメント

- ・統廃合等によって管理職数・教員採用数が相当に減少する。現職教員派遣の意義が変わり、これに伴いストレートマスターの意義が上がる可能性がある。（鍋田）
- ・教員採用は過渡的な状況にあるので、このあたりのことを考えていく必要がある。（岸田）
- ・インターンシップやボランティアを重ねることによって自信も増していく学生の姿を見ているので、理論と実践の往還により学生は成長する。プログラミング教育など現場では手の届きにくいところへの支援は大きい。その他、現職教員派遣の現場での認識についてのコメント。（古田）
- ・特別支援教育コースの説明。（山崎）

（4）質疑応答／協議

（主な意見） ※（3）のとおり

（5）次年度に向けて

- ・次年度の体制：退職者・後任補充者を除き、原則として今年度の継続となる見込みである。
- ・カリキュラムの改革方針：授業実践力向上コースについてはインターンシップの見直しを行い多様な体験を目指す（月曜日→金曜日午前を検討）。他、大学推薦合格者への対応。

（6）閉会挨拶／次回日程について

次回は令和6年夏に予定。